

テーマ：兄弟姉妹の罪に対してどのように私たちは応答すべきなのか？

○兄弟姉妹の罪に対する正しい応答：十個の要素

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1. 同じ神の家族に属する者であると覚えること(1a) | 6. 自分自身に細心の注意を払うこと(1f) |
| 2. 憐れみをもって罪を取り扱うこと(1b) | 7. 一人では抱えきれない重荷を負い合うこと(2) |
| 3. 御霊に満たされて兄弟に向き合うこと(1c) | 8. 慎み深い考えをもって遜ること(3) |
| 4. 正しい状態への回復を追い求めること(1d) | 9. 人と比べるのではなく自分をよく調べること(4) |
| 5. 柔和な心をいつも働かせること(1e) | |
10. _____に最後まで忠実であること(5)

▶「重荷」

二節：「重荷」(ギリシャ語“バロス”)

五節：「重荷」(ギリシャ語“フォルティアン”)

※使徒 27:10

「皆さん。この航海では、きっと、積荷や船体だけではなく、私たちの生命にも、危害と大きな損失が及ぶと、私は考えます」と言った。」

「人には自分で負わなければならない重荷があります。パウロが用いている言葉は、兵士のかつぐ荷物にあたる言葉です。私たちの代わりに誰かが果たすことのできない義務があり、私たちが個人的に責任をとらなければならない働きがあります。たとえどれほど親切であろうとも、私たちに代わって誰も為すことのできないものがあり、どれほど願ったとしても、他の人に押しつけることのできないことがあるのです。」(ウィリアム・バークレー師)

▶「重荷があるのです」

「人はそれぞれ、自分自身の重荷を負うことになるのです。」(2017年版)

「私たちは一人で背負うには重すぎる『重荷』を互いに負い合うべきです。しかし、一つだけ分かち合うことのできない重荷があります。それは裁きの日における神に対する責任です。その日には、あなたは私の荷物を運ぶことはできないし、私もあなたの荷物を運ぶことはできないのです。」

※2 コリント 5:9-10

「そういうわけで、肉体の中にあろうと、肉体を離れていようと、私たちの念願とするところは、主に喜ばれることです。なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現れて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。」

●聖書の描く二つの大きな裁き：

1) 白い御座の裁き

※黙示録 20:11-15

「また私は、大きな白い御座と、そこに着座しておられる方を見た。地も天もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった。また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行いに応じてさばかれた。海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのおの自分の行いに応じてさばかれた。それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。」

2) キリストの裁きの座

※ローマ 8:1-2

「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」

※1 コリント 3:10-15

「与えられた神の恵みによって、私は賢い建築家のように、土台を据えました。そして、ほかの人がその上に家を建てています。しかし、どのように建てるかについてはそれぞれが注意しなければなりません。というのは、だれも、すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。もし、だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、わらなどで建てるなら、各人の働きは明瞭になります。その日がそれを明らかにするのです。というのは、その日は火とともに現れ、この火がその力で各人の働きの真価をためすからです。もしだれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。もしだれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、自分自身は、火の中をくぐるようにして助かります。」

※2 テモテ 4:7-8

「私は勇敢に戦い、走るべき道のを走り終え、信仰を守り通しました。今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現れを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。」